

(英語イマージョン教育〈地理歴史〉)

英語イマージョン教育研究の実践

—地理・歴史において理解を促す補助教材の活用を通して—

沖縄県立具志川高等学校教諭 知 花 エリ子

I テーマ設定の理由

イマージョン教育では、第二言語は授業を教える目的というよりも手段として使用され、子どもは教科の内容を学ぶ過程で第二言語を習得していくとされる。沖縄県が導入を検討している英語イマージョン教育のプログラムでも、学習指導要領に則った各教科の力を育成しながら英語の能力を高めることを目指している。

高等学校学習指導要領「地理歴史」においては「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う」ことを目標としている。世界の様々な国や地域また世界と日本との関わりについて扱う地理歴史科目を国際言語である英語で学ぶことはこの目標を達成する上でも大きな意義がある。

しかし、実際には地理歴史科の教科書で扱う内容や専門用語を生徒が英語で理解し、日本語で行われる授業と同等な学力を身につけるということは容易ではない。英語で地理歴史科を教える教師は、英語と教科の力を高めるため、様々な指導上の工夫をする必要がある。

そこで、英語イマージョン教育研修で学んだ理論や模擬授業の実践を通して、各種補助教材を活用し地理歴史科の理解を促す効果的な学習指導の方法について検証するため、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 英語イマージョン教育における補助教材

(1) 補助教材の教育的意義

補助教材には副読本、問題集、地図、年表、図表、新聞、雑誌、ビデオテープ、CD、パソコンソフト、DVD など様々なものがある。室井修（2002）は、学習指導活動の多様化に対応し、きめ細かい行き届いた学習指導をおこない十分な教育効果をあげるためには、教師の創意・工夫をこらした「有益適切」な補助教材の使用が不可欠だとしている。

また、地理歴史科の授業において補助教材を活用することにより、以下のような効果が期待できる。

- ① 学習内容を整理し、基礎・基本を定着させる。
- ② 生徒の興味・関心をひきつけ、学習意欲を高める。
- ③ 具体的に資料を提示することで、学習内容に関する事柄を分かりやすくする。
- ④ 社会的な事象を多角的に読み取る力を育成できる。
- ⑤ 世界の様々な地域や、歴史的な事象・人物についてわかりやすく提示し理解させることができる。
- ⑥ 図表や資料を読み取ることで、資料読解力を育成できる。
- ⑦ 資料を活用して自分の考えを表現する力を育成できる。

(2) 英語イマージョン授業における補助教材

英語イマージョンによる授業では、教科の学習内容の理解だけではなく英語力の向上という点も考慮して、使用する補助教材を選択しどう活用するかを考える必要がある。しかし、実際には生徒の英語力にはばらつきがあり、難易度や生徒の興味・関心といった点から生徒の実情に合わせて使用する教材を選択しなければならない。

村野井仁（2006）は、第二言語指導について、理解可能なインプットを大量に与えることが言語習得を促進するための第一条件としている。また、そのインプットの内容は自分の生活や将来、興味・関心に関連があるべきであるとし、大量のインプットを継続的に取り入れるためには内容が興味の持てるものでなければならず、そうでなければ言語習得への効果は期待できないとしている。

内容中心（content-based）の授業では、生徒の興味・関心をひきだし、理解の手助けともなる補助教材を効果的に活用することにより教科の力と英語力の向上という目標を達成することが可能になる。

2 第二言語習得理論を考慮した補助教材の活用

(1) 言語習得の認知プロセスについて

英語イマージョン教育において、英語以外の教科を担当する教師は英語指導の経験がなくとも、英語と教科の理解力を高めることを求められる。英語（第二言語）の習得過程を考慮し授業を展開することは内容中心第二言語指導、つまり英語以外の教科指導において効果的な方法の一つと考えられる。

村野井(2006)は言語習得について、学習者に取り入れられた目標言語のインプットが、気づき、理解、内在化、統合などの認知プロセスを経て、段階的に学習者の言語知識として定着し、最終的にアウトプットする能力を身につけることができるとしている。つまり、学習者ははじめに入ってきた言語項目に注意を向け（気づき）、その発話の意味と機能を理解し（理解）、自己の中に同化・吸収して（内在化）、言語知識を長期記憶として貯蔵し（統合）、やがて言語知識を瞬時に使える運用能力を習得するとしている。

(2) 第二言語習得の認知プロセスを考慮した授業展開例

村野井（2006）は、内容中心の指導について、提示(Presentation)・理解(Comprehension)・練習(Practice)産出(Production)（PCPP）という流れでおこなうことで、従来の指導方法を抜本的に変更することなく、第二言語習得の認知プロセスに効果的に働きかけるとしている。この PCPP による指導手順に、様々な補助教材の活用を組み込むことで、内容理解と英語力の向上に効果的な授業展開が可能になると考えられる。

図 1 に PCPP に基づく授業展開例を示す。

展開	授業の内容	補助教材の活用例
提示 (導入)	題材内容やトピックへの口頭導入。 新出項目の提示。	トピックに関連した写真、映像を提示し、 本時のテーマへの関心を高める
理解 (展開①)	リスニングやリーディング活動による理解。	地図や年表、ワークシートを活用し、学習内容を理解を深める。
練習 (展開②)	言語運用能力を高める練習。	トピックに関連する Q & A、グループワークにより英語を発話する。
産出 (まとめ)	目標言語による理解度確認、要約、プロジェクト型タスク活動など。	ワークシートの解答や要約をおこない本時の内容が理解できたか確認する。

図 1 PCPPによる授業展開例（村野井2006を参考に作成）

3 補助教材を活用した地理歴史科の英語イマージョン授業

(1) 実際の授業で懸念されること

イマージョンプログラムが実施される場合、現在、日本の高等学校で使用されている地理歴史科の教科書を英訳し使用されることになるため、実際の教育課程上の指導計画に則って学習指導案を作成することになる。教科書英訳の際は、ALTや英語教諭の助言を受け、出来るだけ平易な英語、自然な表現を用いるように努める必要がある。

しかし、英語で地理歴史科の授業をおこなう際、難解な専門用語が多く出てくるためにその説明に時間がかかり、進度が遅れることが予想される。また、専門用語の説明だけではなく、難しい語句をパラフレイズしたり、生徒が授業内容を理解しているかどうかを確認したりしなければならない。授業の時間配分にゆとりをもたせ、内容の理解も促すための指導上の工夫が必要である。

(2) 授業で工夫すべきこと

実際の授業では、授業をスムーズに展開させ、英語の理解も促すために、補助教材を活用する上で以下のような工夫が必要である。

- ① 学習内容を精選し、授業で使用する配布資料も厳選する。
- ② プレゼンテーションソフトを使用する際はスライドの数が多くなり過ぎないようにする。スライドの内容もシンプルにする。
- ③ 教科書を読んで理解できることは予習して理解させるようにする。授業で使用する資料だけではなく予習用のプリント（資料）や予習のためのワークシートを作成し、授業前に配布しておく必要がある。

Goals of Today's Class

- to understand
- various forms of nations.
 - a nation is formed by the **three factors**:
sovereignty, territory, and citizens.

2

図2 スライドの活用例(1)
(本時の目標を提示する)

- ④ ワークシートは穴埋め式や選択式，正誤方式にして短時間で記入できるように作成する。
- ⑤ 授業に出てくる単語の意味をすぐに参照できるよう，ワードリストを作成する。ワードリストで扱う単語はキーワード中心にし，単語の数が多くなり過ぎないように注意する。
- ⑥ ワードリストには，以下のように日本語の意味だけではなく英語による言い換え（パラフレイズ）でも理解できるよう英文による平易な表現の説明も記載する。表1に例を示す。



図3 スライドの活用例(2)

表1 ワードリストの例

Words	Meaning	意味
dictatorship	rule, control, or leadership by one person with total power	独裁
colony	country ruled by another	植民地

Ⅲ 指導の実際

2007年9月に沖縄国際大学，2008年1月に球陽高等学校で英語イマージョンによる授業をおこなった。

1 沖縄国際大学での授業実践

沖縄国際大学では，教職課程を履修する英米語学科の学生11人を対象に地理Bの「現代世界を構成する国家」をテーマに英語による授業を実践した。プレゼンテーションソフトをメインの教材としスライドに学習内容のポイントやトピックに関連した写真を挿入して，世界地図も活用しながら授業をおこなった。

(1) 単元名 「現代世界を構成する国家」

(2) 指導目標

- ① 国家は規模や構成によって多様な形態があることを理解する。
- ② 国家は「主権」「領域」「国民」の三要素によって成立していることを理解する。

(3) 本時の展開 (50分)

過程	学習内容・活動	教師の活動・留意点	使用補助教材
導入 (5分)	本時の主題と目標を確認する。	本時の主題と目標を提示する。	スライド
展開 (40分)	【国旗クイズ】 【様々な国家の形態】 国名から共和国，王国，連邦国家など国家形態の違いを読み取る。 【国家の三要素】 国家は領域・国民・主権からなることを理解する。 【独立国と非独立地域】 ・主権があるということはどのようなことか理解する。 ・非独立地域はどこの国に属しているか地図帳を使って調べる（ペアワーク） 【国際連合について】 ・国連の役割について理解する。	・世界の国旗とその国に関する写真を提示する。 ・正式名称を参照させ，名称から国家の統治形態が分かることに気づかせた上で，国家形態の違いについて説明する。 ・国家の三要素について説明し，さらに領域は領土・領空・領海からなることを理解させる。 ・国家の主権とは何か，生徒に考察させる。 ・地図帳を使ってどのように調べるか具体的に指示し，スムーズに作業が出来るようにする。 ・国連が発足した背景について理解させる。	写真 地図帳 ワークシート ワークシート スライド ワークシート 国や地域名を書いたカード， 地図帳 スライド
まとめ (5分)	本時の主な内容についての質問に答える。	本時の主な内容について質問することで，本時の目標が達成できたか確認する。	スライド

(4) アンケート結果と考察

アンケートは授業終了後に実施した（回答者11人）。図4に授業の理解度を示す。また、授業で使った補助教材のうち、理解に役立ったものは何かとの問いに対する答え（複数回答可）は図5のようになった。

アンケートの結果から、授業で使った補助教材のうち特に視覚教材が理解を促すのに役立つことが分かった。写真はその国や地域の特色をよく反映したのを使い、プレゼンテーションソフトのスライドもあまり多くの内容を詰め込みすぎないようにし、世界地図を参照しながら授業をおこなう工夫が有効だったと考えられる。また、主権（sovereignty）や連邦国家（federal states）、共和国（commonwealth）などの専門用語の説明におけるパラフレイズについては「理解できた」「おおむね理解できた」という答えがあわせて82%、「あまり理解できなかった」との答えは18%という結果であった。授業の対象となった学生たちは英語の能力が高く、授業の説明やパラフレイズへの理解度は高かったといえる。

実際の英語イマージョンの授業では、ワードリストの利用に頼らず難しい語句をかみ砕いて教える技術が大変重要になってくると感じた。表2に授業に対するコメントの抜粋を示す。

表2 授業の感想

- とても楽しく勉強することができた。
- 少しパワーポイントがはやかったけど、全体的にとっても分かりやすかったです。
- もっと発問して生徒の意見をききだしたほうがよい。最初に授業の目標をかかげたのは良い。
- 良かったと思います。地理は英語でも日本語と差はないと思う。今日の授業は前半時間をかけすぎているかと思う。

2 球陽高等学校での授業実践

球陽高等学校では、国際英語科の1年生を対象に世界史Aの「一体化する世界」について英語による授業をおこなった。授業の一週間前に、当日使用する教科書の英訳プリントとワードリスト、授業内容を簡潔にまとめた予習プリントを生徒に配布した。また、事前に学習内容に関する英語力を把握するために語彙力チェックをおこない、英訳教科書に出てくる102語をとりあげ、生徒が意味を知っている単語や熟語をチェックさせた。

語彙力チェックの回答者は38名で、生徒が意味を知っている語句数の平均は41語であった。

図6にみられるように、生徒の英語の語彙力にはかなりばらつきがある。また、生徒は世界史Aの教科書で扱う専門用語（帝国主義〈imperialism〉、金融資本〈financial capital〉、独占資本〈monopolies〉など）を難しいと感じているだけでなく、平易な表現を使って言い換えた語もあまり理解できていない状況であった。例えば、「解放」を正式な訳語のemancipationを使用せず、freeingと記述したが7割以上の生徒が意味を理解していなかった。

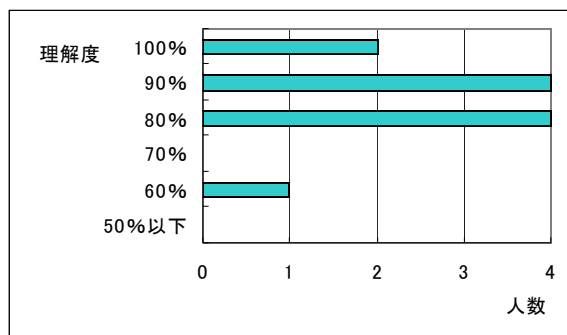


図4 授業をどの程度理解できたか

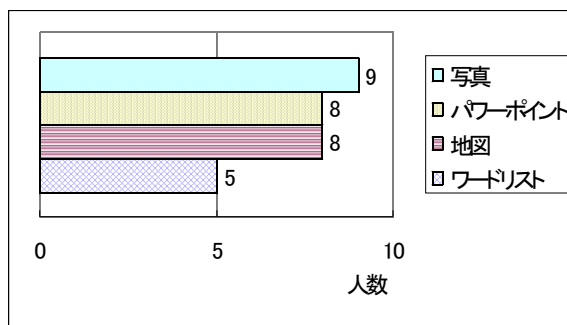


図5 授業の理解に役立ったものは何か

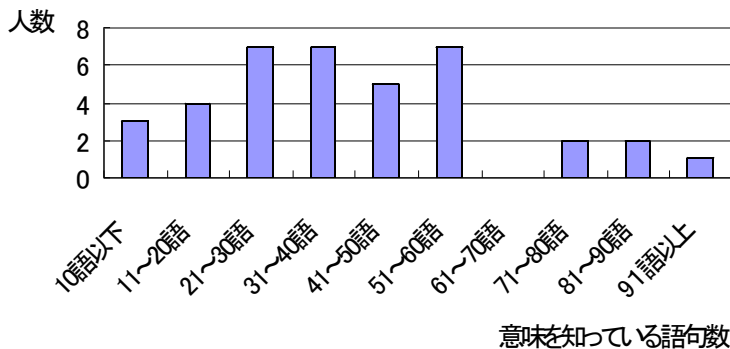


図6 語彙力チェックの結果

(1) 単元名 「一体化する世界」

(2) 指導目標

- ① 帝国主義が成立した過程を理解する。
- ② 列強の植民地獲得競争が世界に及ぼした影響について考える。
- ③ 19 世紀から 20 世紀初頭にかけての全世界的な人口移動の流れを把握する。



写真1 授業の様子

(3) 本時の展開 (50分)

過程	学習内容・活動	教師の活動・留意点	使用補助教材
導入 (7 分)	・ 本時の主題とキーワードの確認。 ・ 世界の公用語についてのクイズ 質問に答えながら、本時のテーマへの関心を高める。	・ 本時の主題とキーワードを提示する。 ・ 世界の公用語についてのクイズを出題し、言語と植民地支配との関連に気づかせる。	スライド スライド 世界地図
展開 (33 分)	【資本主義の発展】 独占資本の成立過程を理解し、先進工業国が植民地支配を拡大した理由について考える。 【帝国主義の時代】 帝国主義の概念を理解し、帝国主義の衝突が軍備拡大へとつながり、やがて第1次世界大戦に発展していくことを理解する。 【あらたな植民地の獲得】 列強諸国の情勢と、中国・アフリカの状況を理解する。 【移民の世紀】 世界規模の人口移動について理解する。	・ 独占資本成立の背景を説明し、世界の一体化との関わりについて考えさせる。 ・ 帝国主義の成立過程を説明し、各国が軍事力を強化した背景と世界大戦との関わりについて考えさせる。 ・ 既習事項をおさえているか確認しながら、列強諸国の情勢について理解させる。 ・ 19 世紀に移民が増加した要因について考えさせる。	ワークシート スライド ワークシート スライド ワークシート スライド
まとめ (10 分)	・ 本時のキーワードを用いたペアワークをおこない、本時の学習内容を理解できたか確認する。 ・ ワークシートを解答する。	・ ペアワークの方法について具体的に指示する。 ・ ワークシートを解答し、本時の目標が達成できたか確認する。	キーワード・カード ワークシート

(4) アンケート結果

授業終了後におこなったアンケート（回答者37名）では、英語イマージョンの授業に備えて予習をしたと答えた生徒は22名、予習しなかったと答えた生徒は15名であった。

生徒の86%が英訳教科書の内容を「難しい」または「少し難しい」と答えているにもかかわらず、授業内容を「よく理解できた」「理解できた」と答えた生徒は合わせて73%であった。

また図7の通り、半数以上の生徒がワードリストやプレゼンテーションソフトが理解に役立ったと答えた（複数回答可）。

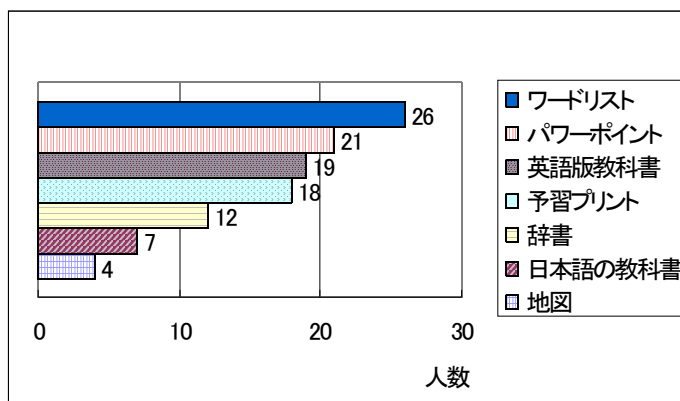


図7 授業の理解に役立ったものは何か

図8にみられるように、予習した生徒と予習しなかった生徒の理解度には差が出ている。

帝国主義や独占資本などの専門用語の説明などにおけるパラフレイズは「よく理解できた」「理解できた」と答えた生徒はあわせて 62 %にとどまった。

表3に、授業に関する生徒のコメントの抜粋を示す。

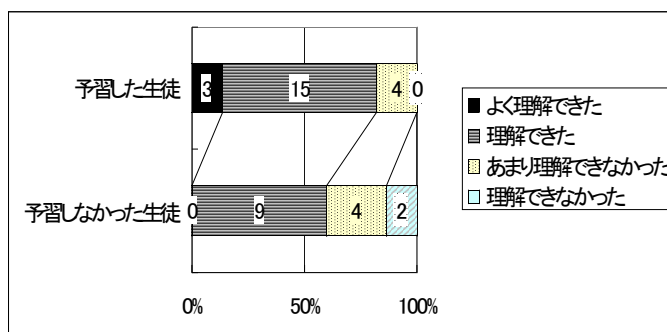


図8 授業は理解できたか

表3 授業後の主な感想

- 授業は全部英語で不安だったけど実際やってみてよかったです。
- パワーポイントがとても分かりやすく、他に理解するために参考になるものが多く理解しやすかった。
- 注意深く聞くことで、普段の授業より集中することができた。
- パワーポイントでやったから案外理解することができた!!!
- もっと一人一人が英語を話せるようにしてほしい。でも授業は楽しかったです。またイマージョンしたい！
- 様々な国の流れを英語で聞くのは面白い！単語、単語が難しかった。

(5) 考察

アンケート結果から、難解な内容についての英語による授業でも視覚教材やワードリストなどの補助教材を活用することによって、理解を促すことが可能であることが分かった。内容的に帝国主義や独占資本などの概念は日本語でも分かりにくいいため、スライドを利用して視覚的に理解させることができたと考える。また、ワードリストを活用して難しい語句の意味を調べ、授業を理解しようとする学習意欲の高さもみられた。

予習した生徒の多く（22名中18名）が予習プリントは理解に役立ったと答えており、授業を理解するための予習用のワークシートなどは必須である。パラフレイズについては生徒が十分理解できるように、教師側のさらなる改善が必要である。

生徒は英語での世界史の授業に慣れておらず、発言も少なかった。生徒が英語を使って質問をしたり、教師の投げかけに答えたりしやすい雰囲気づくり、環境づくりもイマージョンによる授業では大変重要になってくると感じた。

IV まとめと課題

研究実践のための授業は沖縄国際大学、球陽高等学校ともに1回のみであったので、生徒の変容をみることはできなかったが、難解な内容の分野を扱う英語による授業であっても、様々な補助教材を活用し指導方法を工夫することにより、理解を促すことは可能であることが分かった。また、内容中心授業では、英語の理解を助ける上で視覚教材と英語の力を補強する補助教材が特に重要であることも分かった。

しかし、イマージョン教育においては、アウトプットの促進が第二言語を習得する上で不可欠とされていることから、アウトプットを促し英語の機能的能力を高めるためにどのような学習指導をおこなうかが課題である。補助教材の活用から考えれば、英語ニュースや英字新聞、英文雑誌の記事等を使ったグループ学習やディスカッション・レポート作成、ビデオを観たあとでロールプレイをおこなうなど様々な方法が考えられる。情意フィルターを下げアウトプットを促進する上で、生徒の興味・関心をひきつけ、意欲を高める補助教材を選択し活用しなければならない。

また、生徒たちの英語力には個人差があることが予想されるので、英語での授業についていけない生徒に対してどのような方法で支援していくかも検討する必要がある。

〈主な参考文献〉

- 村野井仁 2006 「第二言語取得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」 大修館書店
- 文部科学省 1999 「高等学校学習指導要領 地理歴史」
- 山本雅代編 1999 「バイリンガルの世界」 大修館書店